

来週の「売り物」記事はこれ



2015年4月10日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

開かずの踏切事故から10年

「悲しみを繰り返すまじ…」遺族の祈り 12日(日)



ラッシュ時には最大50分以上遮断機が下りたままとなり、「開かずの踏切」と呼ばれているそうです。東武伊勢崎線・竹ノ塚駅（東京都足立区）近くの踏切——。4人が死傷した事故から10年がたちます。「踏切に入った人が悪い」という周囲の冷たい視線に苦しみながら、遺族たちは踏切事故の根絶を訴える活動を続けています。全国各地の踏切事故の遺族とも連帯し、悲しみの体験を乗り越えて

「誰の身の回りでも起こりうる」と、関係機関に踏切事故ゼロに向けた安全対策を求めています。事故で母を亡くした50歳の主婦にスポットを当てて、個人的な死を、社会の安全システムの改善に生かしたいという願いに昇華させていった遺族たちの「10年」を描きます。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待ください。

あなたの職場は大丈夫？

マタハラやセクハラの「グレーゾーン」

夕刊2面特集ワイド 16日(木)



妊娠や出産をきっかけに職場で嫌がらせを受けたり、自主退職を強要されるなどの「マタハラ」(マタニティーハラスメント)が大きな問題となっています。新入社員を迎えて心機一転という職場も多いこの時期は、マタハラやセクハラの対策も一層重要です。はっきりと分かるマタハラやセクハラは論外ですが、自分が「このくらいなら大丈夫だろう」と思う「グレーゾーン」でも、相手がハラスメントと受け取らないとは限りません。どのような対応が望ましいのか、専門家とともに考えます。

別所哲也のスマートトーク おんなのしんぶん 13日(月)

隔月で連載している「スマートトーク」。今回のゲストは、世界ランク5位の卓球選手、石川佳純さんです。中国選手が強い理由や卓球の面白さを楽しくお話いただきました。休日の過ごし方など、22歳の素顔も垣間見える対談となりました。



高村薫コラム・お茶にします？ くらしナビ面 12日(日)



人気小説家、高村薫さん=写真=のコラムがスタートします。初回のテーマは、ご近所さんとのごあいさつ。新生活の始まるこの時期、人々の暮らしが多様化する中、ご近所さんに、どう声をかけたらいいのか頭を悩ませているという高村さん。そんな高村さんに毎朝遠慮なく声をかけてくる相手とは——。

食・蒸し料理のポイント

くらしナビ面 14 日 (火)

蒸し料理は、油を使わず、野菜を多く取ることができるヘルシーな料理法。でも、少し手間がかかることで敬遠されがちです。電子レンジを使えば簡単ですが、ちょっと待って。蒸し器を使うと、やわらかく、ジューシーさを保ち、素材の甘みやうまみを引き出します。蒸すことのメリットをいかしたレシピを紹介します。



新連載「映画と私の昭和」

朝刊文化面 18 日 (土)



直木賞作家の長部日出雄さんの新連載エッセー「映画と私の昭和」は、1945 年の終戦後まもなく封切られた音楽映画「そよかぜ」を取り上げます。主演の並木路子が歌った挿入歌「リンゴの唄」は大ヒットしました。背景にあった当時の映画界を取り巻く状況や日本人の思いをつづってもらいます。

長期連載「戦後 70 年」のシリーズ第 9 作

「戦没者遺骨 イマダ帰還セズ」

2 面 14 日から

2 面の長期連載「戦後 70 年」のシリーズ第 9 作「戦没者遺骨 イマダ帰還セズ」が 14 日から始まります。第二次世界大戦の日本人戦没者 310 万人のうち外国を中心におよそ 113 万人の遺骨が収容されていません。帰還しても身元判明は困難で、空襲など国内での戦没者だけでも 40 万柱近くが「無縁仏」となっています。沖縄と広島、長崎、東京、シベリア。奇跡的な復興の過程で置き去りにされてきた遺骨を通じて「日本の戦後は何だったのか」を考えます。担当は東京学芸部の栗原俊雄記者です。



スマホ利用の注意点

くらしナビ面 18 日 (土)



子どもの進学などでこの 4 月、新たにスマートフォン（スマホ）を購入されたご家庭も多いのでは。スマホは手軽で便利な機能が多数ついている反面、よく理解せずに使っていると思わぬトラブルに巻き込まれる危険もあります。スマホ初心者が気を付けたい注意点について、分かりやすく説明します。